

地方都市視察報告書

文化観光産業特別委員会

1 実施日

令和4年7月22日（金）

2 視察地 岐阜県多治見市

【市の概要】

(1) 面積 91.25km²

(2) 人口・世帯数

(令和4年7月1日現在)

人口 107,523人

世帯数 47,418世帯



(3) 多治見市は、古くから陶磁器やタイルなど美濃焼の産地として発展し、昭和15年（1934年）に市制を施行、昭和50年代の丘陵部の宅地開発や平成18年（2006年）の土岐郡笠原町との合併などにより、人口約11万人の東濃地方の中核都市となった。

開山700年の虎溪山永保寺や設立80年の神言修道院があるほか、美濃陶芸の人間国宝を4人輩出するなど、長い歴史に裏打ちされた人を育てる文化を礎に、同市は、企業誘致や岐阜県ナンバーワンの教育環境、地域医療の充実などのまちづくりを進めてきた。令和2年4月には人口が11万人を下回り減少傾向となったため、人口減少対策や地域力の向上などにも取り組んでいる。

同市内には、個性あふれる美濃焼が並ぶショップやギャラリー、歴史ある窯元や古い町並、手軽に陶芸体験ができる作陶施設も充実し、美濃焼文化が息づいている。一方、多治見駅周辺では、多治見駅南地区の再開発事業が進んでいる。

平成19年（2007年）8月16日に日本国内の最高気温記録（当時）となる40.9℃を日本で最初に観測した。「日本一暑い町」としての観光誘致のために、漫画家のやなせたかしによってキャラクター「うながっぱ」が作られた。

3 視察項目・内容

- ・アニメ「やくならマグカップも」を活用した観光施策について
- ・建築物における美濃焼タイル施工補助について

4 視察参加者

【委員】

鈴木 ひろみ委員長、 おぐら 利 彦副委員長、 木もとひろゆき委員、
藤原 たけき委員、 渡辺みちたか委員、 志田 雄一郎委員、
あざみ 民 栄委員、 中村しんいち委員、 雨宮 武 彦委員

【随行】

議会事務局議事係 大場 裕介、設楽 拓也

5 視察結果・所感

多治見市においては、「やくならマグカップも」を活用した各施策及び美濃焼タイル施行補助事業に係る実績等並びに美濃焼産業に関する施策全般について、産業観光課の職員から説明を受け質疑を行った。

「やくならマグカップも」の活用については、ロケ地マップの作製のほか、市内各所での広告物の設置、「やくならマグカップも」のお土産コンテスト開催事業、観光会社とタイアップしたロケ地巡りプランの実施、ラッピング公用車・PRトラックの製作、声優イベント等各種イベントの開催など多くの事業を実施し、観光施策を展開している。なお、これらの取組に対して、「第1回京都アニものづくりアワード」受賞、「訪れてみたい日本のアニメ聖地88」選定などの評価を得ている。

美濃焼タイル補助では、市内の住宅や店舗等の新築またはリフォーム等をする際のタイル施工に係る材料費や工事費の一部を補助する制度を、平成30年度から実施している。平成30年度から令和3年度までで49件の申請実績があり、毎年300万円から400万円の補助金を交付している。また、美濃焼タイルだけでなく、陶磁器としての美濃焼産業を支援する施策を実施している。多治見市が設置する多治見市陶磁器意匠研究所修了生の定住促進事業では、雇用・定住促進奨励金の交付や展覧会等を実施し、研究所修了生のうち12名が美濃焼産業へ就業した実績を残している。さらに、作家活動のしやすい環境整備として、セラミックバレー振興補助金により、シェア工房整備や新商品開発を推進する等、力を入れている。

新宿区の地場産業である染色業や印刷・製本関連業の支援に関しても、多治見市のように特定の産業または特定の分野について直接的な補助を出すということについて、区民の関心や理解を得ながら地場産業の振興に役立つ支援の在り方を研究していく必要がある。

6 主な質疑項目

- (1) 市内各所における「やくならマグカップも」の広告物の設置について
- (2) 「やくならマグカップも」のファンを対象にした多治見市のPR施策について
- (3) 「やくならマグカップも」を活用した観光の取組状況について
- (4) 「やくならマグカップも」お土産コンテストの実施状況と商品化実績について
- (5) 美濃焼タイルの施工事業等の特定の産業に対する直接補助のあり方について
- (6) 美濃焼の技術の継承、後継者の担い手育成、雇用・定住促進について

7 その他

【共同視察者】

文化観光産業部文化観光課長 村上 喜孝
文化観光産業部産業振興課長 市田 亮



写真：多治見市ラッピング公用車